



2024

ENVIRONMENTAL REPORT

環境報告書



ダイニチ 株式会社

目 次

ごあいさつ P.1

会社概要 P.2

環境基本方針 P.3

環境課題への取組み P.4

環境目標・実績 P.5

2023年度環境負荷低減の取組み P.6～P.10

気候変動対応・省エネルギーの取組み

省資源・廃棄物削減の取組み

- 水資源の有効活用
- 廃棄物削減の取組み
- 廃プラスチック削減の取組み

化学物質排出削減の取組み

マテリアルフロー P.11

環境関連商品 P.12

2023年度拠点ごとの活動状況 P.13～P.25

ダイニックは、製品の開発から廃棄まで 常に環境保全を考えた企業活動を推進しています。

暮らしを「豊かに」そして「快適に」彩ることがダイニックのテーマです。

ダイニックグループは、住みよい地球に向かうための環境基本方針を常に心掛け、生物多様性と気候変動に伴うリスク対応を重要課題として認識し、技術と環境との調和を踏まえた、環境にやさしい企業活動に日々努めております。

国内にある5つの工場では、すでに省エネルギー設備導入や再生可能エネルギーの利用推進などカーボン・ニュートラルに向けた活動を行ってきました。これからもこの活動を強化し継続していくとともに、生物多様性に配慮した商品設計や保全活動を推進してまいります。

その活動を具体化していくために2023年4月からの3か年中期経営計画“SOLID FOUNDATION 2026”の中で、非財務目標として気候変動・生物多様性への具体的な活動目標を策定し、取組みを開始しています。2022年度は、CDP回答も初めて行いました。2023年度にはTCFD・TNFDに賛同表明しました。これからも環境課題への取組みをさらに加速してまいります。

1987年に開館した天究館では、多賀町と協力し天体観望会やプラネタリウム上映を通して環境啓発活動を継続しています。

国内外のグループ会社におきましても、省エネルギー設備の導入や生物多様性保全の取組みなどを継続して推進しております。

今後も信頼される企業であり続けるために、次世代に向けて、全従業員が一丸となって環境対策への取組みを強化し、地球環境と生活環境に配慮した環境関連商品の開発に取り組み、地球環境保全の実現に貢献する企業活動を推進してまいります。



令和6年8月

ダイニック株式会社
代表取締役社長

小田英伸

会社概要

商号	ダイニック株式会社 DYNIC CORPORATION
創立	1919年8月18日
資本金	57億9,565万円
株式	東京証券取引所スタンダード市場
売上高	293億円（グループ含み421億円） （2024年3月31日現在）
従業員	620名（グループ含み1,131名） （2024年3月31日現在）
本社	東京本社：〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル 電話 03-5402-1811（代） FAX 03-5402-3146
	京都本社事務所：〒615-0812 京都市右京区西京極大門町26番地
営業所	札幌、東京、名古屋、大阪、福岡、香港、シンガポール、米国、タイ、英国、中国、インドネシア、チェコ（グループ含む）
工場	滋賀、埼玉、王子、富士、真岡、米国、タイ、英国、中国、インドネシア、チェコ（グループ含む）
関連会社	国内7社、海外11社
事業内容	書籍装幀用クロス、印刷・ビジネス用各種クロス、パッケージ用化粧クロス、銀行通帳用クロス、フィルムコーティング製品、表示ラベル用素材、複合フィルム、プリンターリボン、名刺プリンタ、文具紙工品、磁気関連製品、有機EL用水分除去シート、カーペット、壁装材、天井材、ブラインド、自動車内装用不織布・カーペット、フィルター、産業用ターポリン、テント地、雨衣、産業用不織布、容器密封用アルミ箔・蓋材、各種紙管紙器、パップ剤用フィルム加工、食品鮮度保持剤、接着芯地、ファンシー商品、商品等運送・保管他（グループ含む）

環境基本方針

地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題が深刻化するなか、カーボン・ニュートラルや循環型社会の構築に取り組むことが求められています。ダイニック株式会社は「環境基本方針」を以下のとおり定め、環境対応に取り組んでおります。

【環境基本方針】

ダイニックグループは、環境保全への取組みを重要な経営課題と認識し、国内外の環境関連法規制を遵守するとともに、環境負荷のより少ない製品を市場に提供していくことがメーカーとしての責任と考えている。その考えを具体的に実行するため、開発、資材調達、製造、販売、流通、および廃棄のそれぞれの段階で、以下の項目を徹底推進する。

- (1) 製品のライフサイクルを通じ、事業活動のすべての段階で環境負荷低減と、生物多様性保全等への配慮に努める。
- (2) 省エネルギー、廃棄物削減に積極的に取り組み、環境汚染の防止に努める。
- (3) 有害な化学物質により環境を損なうリスクを低減する。
- (4) 環境に関する事業活動についての情報を開示し、地域社会等と協調しながら、環境保全活動を積極的に推進する。
- (5) 環境保全に対する教育を徹底し、環境への意識向上を図る。

ダイニック株式会社

代表取締役社長 山田 英伸

環境負荷低減の取組み

製品の設計段階から、環境負荷の少ない素材、再利用しやすい素材を考慮することはもちろん、エネルギー負荷の少ない製造方法や、省資源、長寿命化を考慮した製品設計を行なっています。製造段階では、日々の製造現場において、省エネルギー、廃棄物削減に努め、環境負荷低減に取り組んでいます。販売段階では、当社製品をご利用いただくことで、お客様の環境負荷が低減できる環境関連製品を提案し、地球環境保全に貢献する取組みを行なっています。

地球温暖化対策・生物多様性保全の取組み

ダイニック全体で省エネルギー活動に取り組み、二酸化炭素の排出を削減することにより、地球温暖化対策を推進しています。また、生物多様性保全についても、地球温暖化対策等のリスクへの対応により、地球環境との共生を目指して取り組んでいます。

環境課題への取組み

ダイニック株式会社は、持続可能な社会実現における環境課題を次のように考えています。



環境課題	とるべき行動
A. 環境破壊（開発など人間活動による直接的な危機）	最終処分量削減（P8） 遊休地利用時の環境影響事前評価など
B. 社会構造変化（人間の自然に対する働きかけ縮小による危機、無関心化）	バイオマス素材の適切な利用など 教育・体験（教材用素材開発）
C. 環境汚染・外来種問題（人間活動により持ち込まれたものによる危機）	廃棄物削減（P8） 排水・排気ガスの適正管理（P7） P R T R 対象物質使用削減（P10） 資源循環（再生材使用素材と再生しやすい素材の開発）製品含有化学物質管理など
D. 気候変動（地球環境の変化による危機）	省エネルギー（P6） 再生可能エネルギー導入など

2023年度はA. からD. の4課題の関連性を意識しつつ「気候変動」に関連した当社の活動を分析・評価しました。その内容をCDP（気候変動に対する企業の取組み等を分析・評価する非政府組織）の回答へ反映・登録しました。

その結果、「A」～「D-」までの8段階において、「B-」と評価されました。

評価結果を分析し、活動内容の充実と評価改善を目指します。

気候変動以外の課題についても、取組みを強化していきます。

環境目標・実績

ダイニックでは 環境中期目標（2023 年度～ 2025 年度）を設定し、推進していきます。
2023 年度取組み実績は、以下の通りです。

2023 年度の環境目標・実績一覧

取組項目		単位	2023年度				2024年度 目標	2025年度 最終年目標
			目標	実績	自己 評価	関連 ページ		
地球温暖化 防止	CO ₂ 排出量削減	t-CO ₂	2013年度比 15%削減	-12.3%	△	P 6	2013年度比 17%削減	2013年度比 20%削減
	エネルギー 原単位の改善 （＊1）	原油換算 ℓ / km	2017年度比 6%改善	+6.4%	×	P 6	2017年度比 7%改善	2017年度比 8%改善
省資源と 資源循環	水の使用量 削減	千t	2017年度比 16%削減	+7.4%	×	P 7	2017年度比 17%削減	2017年度比 18%削減
	廃棄物量 の削減	t	2017年度比 20%削減	-5.2%	△	P 8	2017年度比 21%削減	2017年度比 22%削減
	産業廃棄物 最終処分量 の削減	t	2017年度比 8%削減	-19.4%	◎	P 8	2017年度比 9%削減	2017年度比 10%削減
環境汚染防止	PRTR対象化学 物質排出量削減 （＊2）	t	2016年度比 16%削減	-11.1%	△	P 10	2016年度比 17%削減	2016年度比 18%削減
環境関連商品	対売上比率 の向上	%	2020年度比 1.5%向上	+2.7%	○	P 12	2020年度比 2.0%向上	2020年度比 2.5%向上

<自己評価凡例>

◎：目標の2倍以上達成

○：目標を達成

△：目標は達成できなかったが、昨年よりは改善された

×

＊1．省エネ法の原単位算定式は2023年度より変更されています。本報告書では2022年度以前の数値との連続性を維持するため、旧計算式で算出しています。

＊2．PRTR法の第一種指定化学物質（特定を含む）は2023年度より従来の462物質から515物質へ変更されています。2023年度に新たに追加となった物質を含めても、物質排出量の削減ができました。

2023 年度 環境負荷低減の取組み

気候変動対応・省エネルギーの取組み

生産活動における省エネルギー・CO₂ 排出削減を目的とした活動に取り組んでいます。主な内容として、高効率型空調機・蒸気ボイラや、コンプレッサのインバータ化、自家消費型太陽光発電設備の増設といった設備の更新や新規導入により、エネルギー効率の向上を目指しています。

2023 年度は投入数量が前年度より 9.1%減少したのに対し、エネルギー使用量は前年度から 4.5%の減少にとどまりました。このため、エネルギー原単位は前年度よりも 5.1%悪化してしまいました。もう一つの活動指標である CO₂ 排出量は前年度より 0.6%減少となりました。

2024 年度も、生産性改善と省エネルギー設備投資などを積極的に推進し、環境負荷低減に取り組んでいきます。

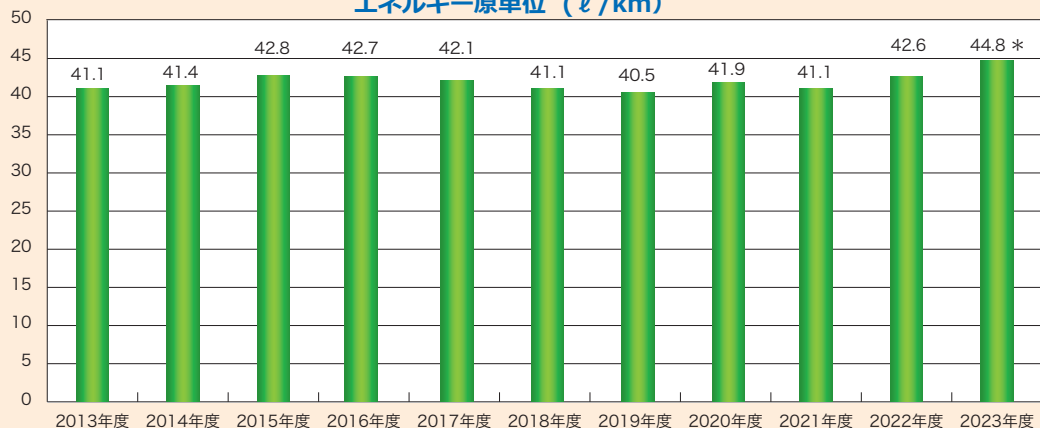
原油換算エネルギー使用量 (kℓ)



CO₂ 発生量 (t-CO₂)



エネルギー原単位 (ℓ/km)



* 2023 年 4 月改正・施行された省エネ法ではエネルギー消費原単位の算定方法が変更されましたが、取組みの継続性を確保するため、本報告書では改正前の算定方法による数値を記載しております。

2023 年度 環境負荷低減の取組み

省資源・廃棄物削減の取組み

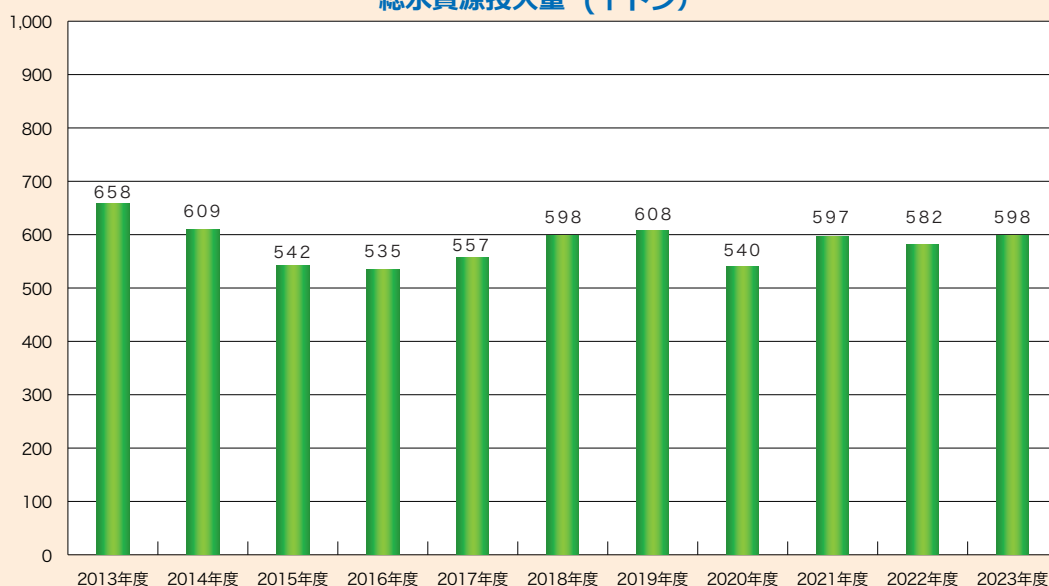
● 水資源の有効活用

生産工程で使用する洗浄水や、冷却水などのリサイクルを推進し、水資源の有効活用に取り組んできました。

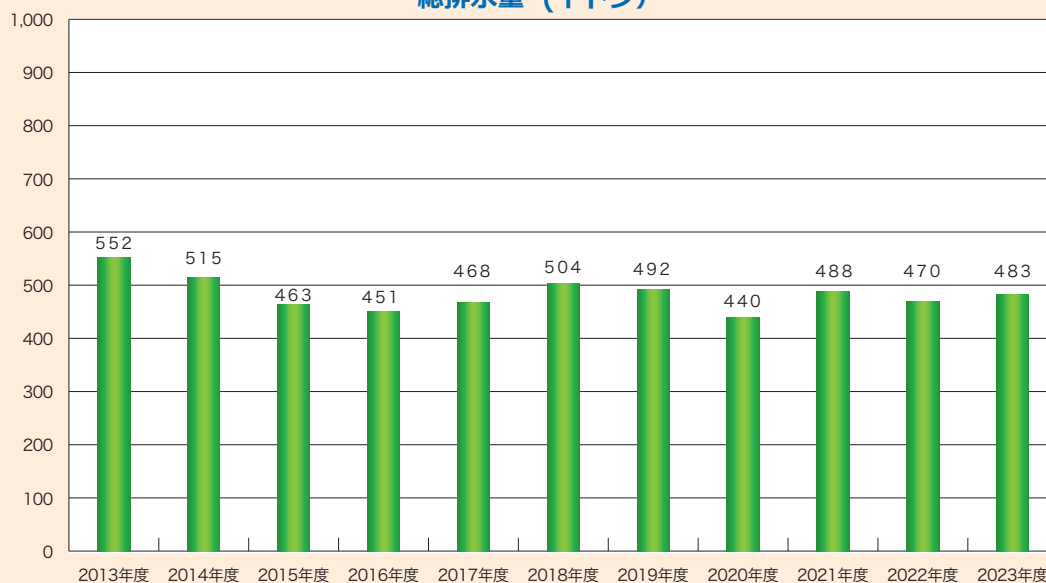
2023 年度の総水資源投入量は前年度比 102.9%へ、総排水量も前年度比 102.7%へそれぞれ増加しました。増加した原因のひとつとして、配管などからの漏水を疑い、設備の点検作業を行っています。

2024 年度も、引続き設備点検と工程での無駄な水利用の検証を進め、総水資源投入量を抑制すべく活動します。

総水資源投入量 (千トン)



総排水量 (千トン)



2023 年度 環境負荷低減の取組み

省資源・廃棄物削減の取組み

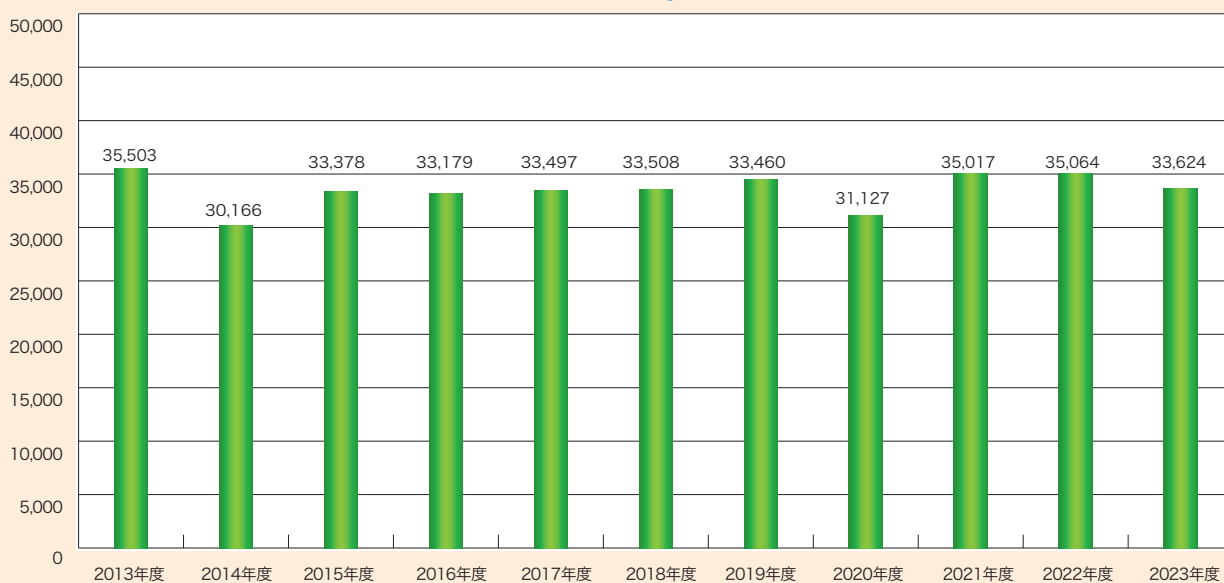
● 廃棄物削減の取組み

地球環境保全のため、廃棄物の削減に取り組んでいます。廃棄物の発生を抑えるだけでなく、資源の有効利用の観点から、リユース・リサイクルを進めてきました。

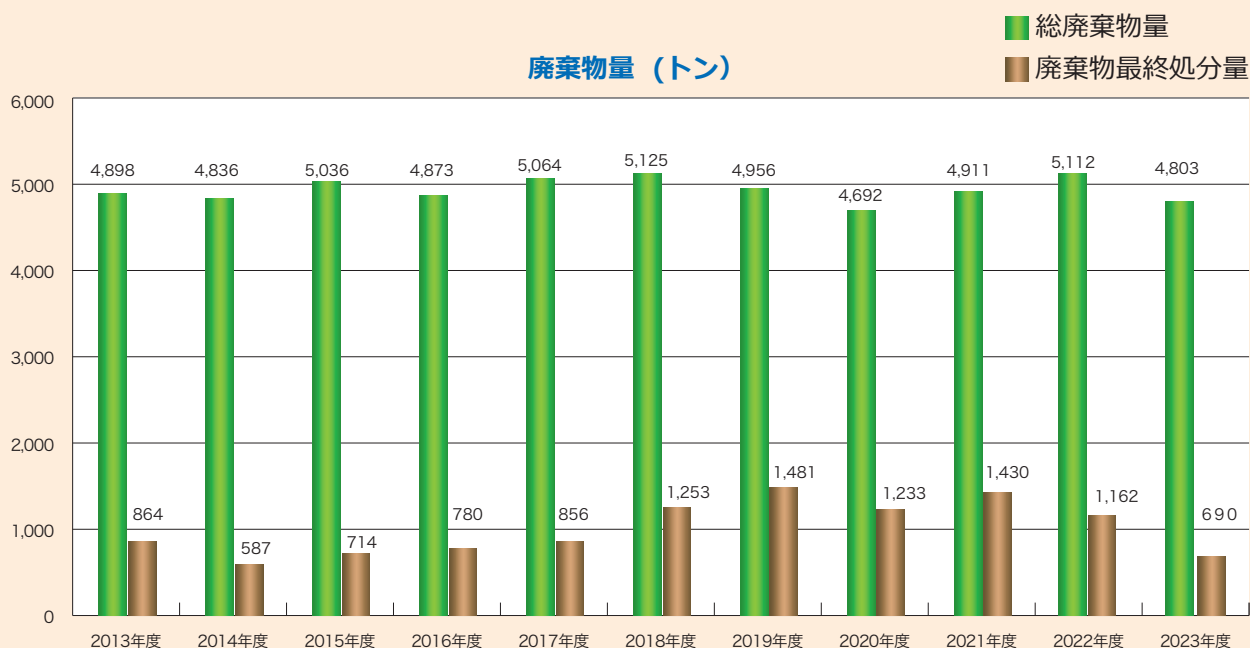
2023 年度の総物質投入量は、投入数量の減少によって前年度より 4.1%少ない 33,624 トンとなりました。一方総廃棄物量は前年度より 6.2%少ない 4,803 トンに抑制できました。また、埋め立てや焼却処分となった廃棄物量はリサイクル・リカバリーの推進により前年度から 40.6%少ない 690 トンへ大幅に削減できました。

2024 年度は、資源の有効利用推進のため、再資源化の推進に取り組んでいきます。

総物質投入量 (トン)



廃棄物量 (トン)



2023 年度 環境負荷低減の取組み

省資源・廃棄物削減の取組み

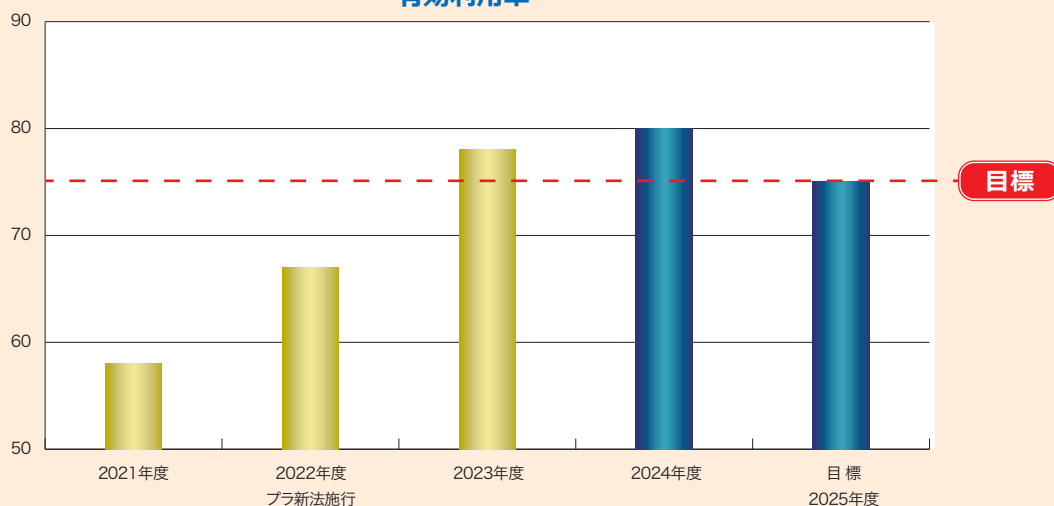
● 廃プラスチック削減の取組み

2022 年 4 月 1 日に施行されたプラスチック資源循環促進法の基本原則・基本方針そして、中期経営計画“SOLID FOUNDATION 2026”の廃棄物最終処分量削減目標を踏まえ、廃プラスチックの有効利用率目標を設定しています。2023 年度は廃プラスチックの処理方法を焼却・埋立処理からサーマルリカバリーなどへの変更を進めました。この結果、有効利用率は前年度比 11% 向上し、有効利用率の最終年度目標を超えた 78% となりました。最終年度の目標を達成しましたが、2024 年度も引き続き資源循環を念頭にさらなる有効利用推進に取り組んでいきます。

国内 5 工場における廃プラスチックの処理状況

	2021年度	2022年度 プラ新法施行	2023年度	2024年度	目標 2025年度
最終処分量 (t)	1,134	948	621		625
再資源化量 (t)	1,544	1,895	2,141		1,875
廃プラスチック排出量合計 (t)	2,678	2,843	2,763		2,500
有効利用率	58%	67%	78%	80%	75%

有効利用率



排出量の抑制については、時間はかかりますが、軽量化・素材変更など製品設計を計画的に粘り強く進めてまいります。商品化に至ったものは、環境関連商品として紹介する予定です。

2023 年度 環境負荷低減の取組み

化学物質排出削減の取組み

化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）に従い、製造工程で使用している化学物質の環境への排出量の届出を行うとともに、削減に努めています。

2023 年度は、排出量を前年度比 15.4%、移動量を 7.4%それぞれ減少させることができました。中長期計画目標である 2016 年度比排出量 35%削減を目指し、2024 年度も取り組んでいきます。

PRTR対象物質総排出量（トン）



PRTR対象物質総移動量（トン）



* PRTR 法の第一種指定化学物質（特定を含む）は 2023 年度より従来の 462 物質から 515 物質へ変更されています。2023 年度に新たに追加となった物質を含めても、物質排出量の削減ができました。

2023 年度の事業活動における 環境負荷の全体像（マテリアルフロー）

当社企業活動・生産活動のために投入した原材料、エネルギー、水資源（INPUT）に対して、各種排出物（OUTPUT）から環境負荷を把握し、効率的な事業活動による資源の有効活用に取り組んでいます。

2023 年度は、産業廃棄物の最終処分量の削減目標を大幅に達成出来ました。

2024 年度は、CO₂ 排出量削減目標の達成を目指し、再生可能エネルギー活用や省エネルギー改善、資源の有効利用に取り組んでいきます。

INPUT	
エネルギー使用量 13,437kℓ(原油換算)	
電力(買電)	28,604 MWh
LNG	1,563 ton
都市ガス	3,187 千m ³
A重油	464 千ℓ
LPG	21 ton
ガソリン	6 千ℓ
水使用量 598 千ton	
地下水	389 千ton
工業用水	164 千ton
上水	45 千ton
原材料総投入量	33,624 ton

事業活動

ダイニック製品群

出版文具関連
情報関連
不織布関連
衣料関連
住宅・インテリア関連
工業用途関連
特殊材料加工
包材関連

OUTPUT	
温室効果ガス(CO₂排出)	
生産からの排出	24,816 t-CO ₂
製品物流からの排出	995 t-CO ₂
※製品物流は 関連会社に委託しています。	
大気への排出	
PRTR対象物質	330 ton
NOx	17.8 ton
SOx	0.3 ton
ばいじん	0.3 ton
水系への排出	
排水量	483 千ton
BOD	0.5 ton
COD	1.3 ton
土壌への排出 なし	
化学物質(PRTR対象物質)	
環境への排出	330 ton
廃棄物としての移動	198 ton
廃棄物総発生量	4,803 ton
焼却・埋立処分量	689 ton
リサイクル量	2,438 ton
有価物量	1,675 ton
リサイクル率	86 %

環境関連商品

ダイニック株式会社は社会の発展や、より豊かな暮らしの創造に貢献するさまざまな商品の開発に、鋭意取り組んでいます。そしてそのような新商品を社会に提供することが、事業を通じた社会への貢献につながるものと考えています。当社では、「地球環境と生活環境に配慮した商品」を環境関連商品と定義しています。

地球環境に配慮した商品

【環境への負荷を低減した商品】

■ 脱塩ビ・脱プラスチック・脱溶剤各種商品

非塩ビファイル（エコファイル）、オレフィン系クロス、※紙製磁気カード、EVAコンテナ、ファイル・バインダー・手帳用表紙クロス水性化 等

■ 再生紙、再生繊維、再生樹脂を使用した各種商品

再生紙使用紙クロス、教科書用紙クロス、背貼り用紙クロス、ナイロン湿式タイプニックセブン、※再生ポリエステル使用カーペット、※再生ポリエステル使用ニックセブン（シータス） 等

■ 持続可能な天然資源を使用した商品

※バイオマス認証インクリボン（BMC1）、※FSC認証紙クロス（エパロン）、レーヨン100%カラー不織布（パネロンカラーシート） 等

【処理処分を考慮した商品】

■ 廃棄のし易さを考慮した商品

ラップ・アルミホイルのカット用紙刃、乳飲料・紙蓋材 等

■ 省資源・3R(Reuse,Reduce,Recycle) に貢献する商品

ストレッチ壁紙、トナーカートリッジ再生、詰替え用サブカセット、自動車天井内装材（軽量化）、有機EL乾燥剤（長期使用性）、製本機用糊シート 等

生活環境に配慮した商品

■ 快適な空間を提供する商品

脱臭フィルター、抗菌消臭壁紙、抗ウイルス壁紙、空気清浄機用フィルター材、不織布床防音材 等

■ 健康・食品の鮮度保持に役立つ商品

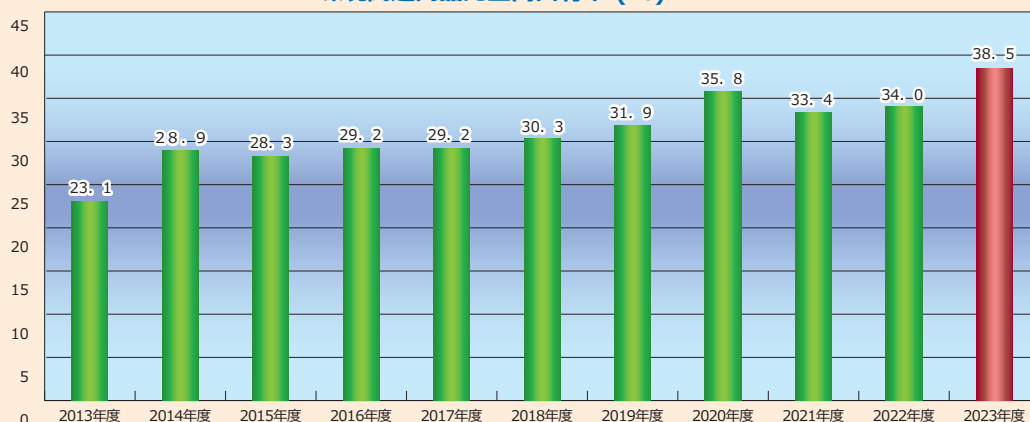
耐水食品包材、食品鮮度保持剤、※エコテックス認証（熱転写インクリボン、ニックセブン表示用ラベル）、パップ材の離型フィルム 等

■ 抗菌・消臭を付与した各種商品

抗菌装丁用クロス 等

※印の商品は第三者認証商品です

環境関連商品売上高占有率 (%)

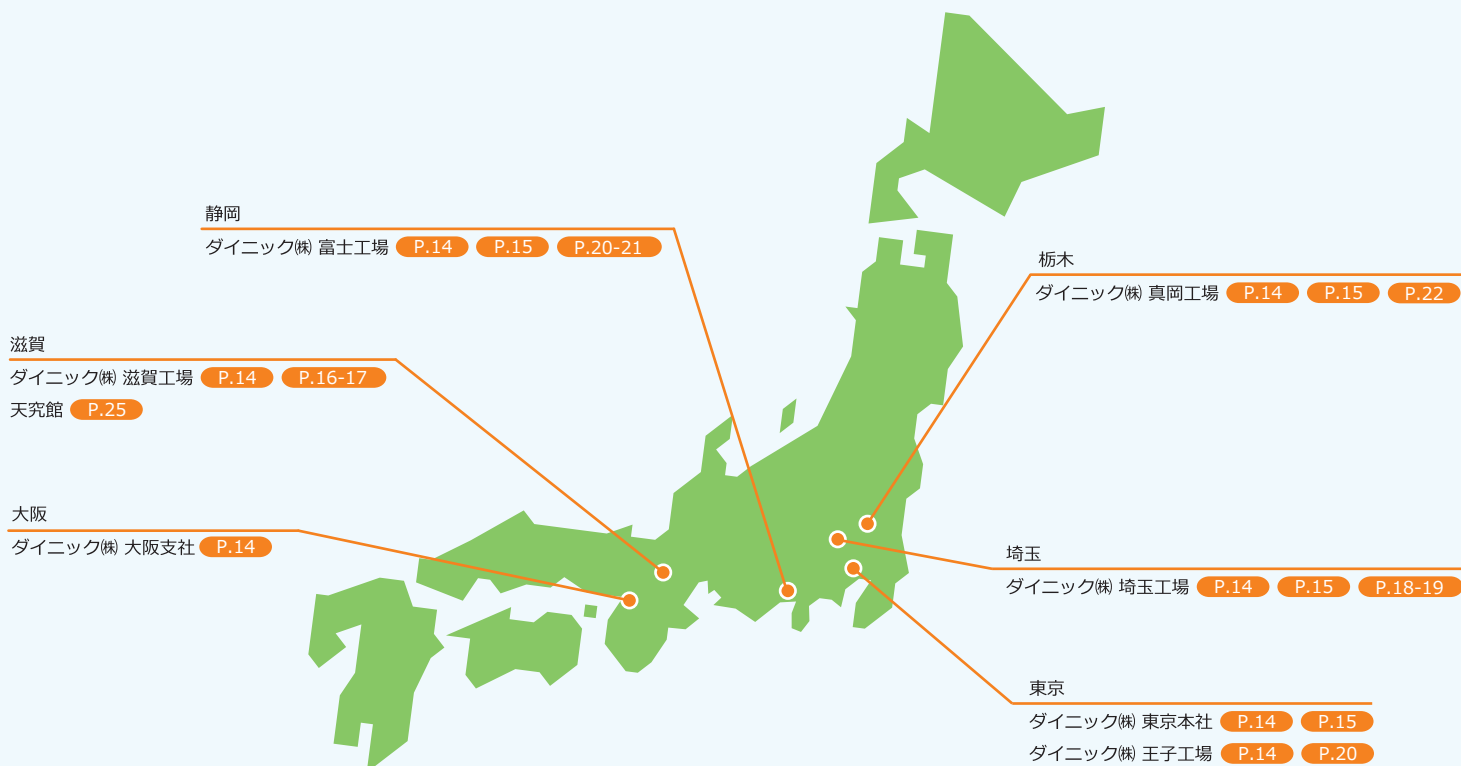


◎ これら環境関連商品の個別の内容説明は、当社ホームページに掲載していますのでご覧ください。

当社は「環境関連商品で社会に貢献する」をキーワードに積極的に商品の開発を行ってきました。2023年度の環境関連商品の当社売上に占める比率は38.5%で目標を達成しました。これからも、人の健康と環境に配慮した環境関連商品売上高占有率を上げてゆくことで、社会に貢献していきたいと考えております。

2023年度 拠点ごとの活動状況

活動状況を紹介している国内拠点



活動状況を紹介している海外拠点



サステナビリティへの取り組み報告

2023 年度 SDGs 勉強会

ダイニックでは、持続可能な社会実現のために「サステナビリティ取組み方針」を2022年に制定し、2023年にスタートした中期経営計画「SOLID FOUNDATION 2026」に反映し取組みを進めています。

SDGs17の到達目標に示される社会課題に対し、事業を通じてどう応えていけばいいかを考える機会として、10月26日に「SDGs経営の基本」をテーマに勉強会を開催しました。前半は、国内における社会視点の変化や企業に対する価値感の変化、SDGsに取り組む目的や手順、SDGsの課題解決策を経営へ統合するための道筋などについて学びました。後半のワークショップでは、事業活動とSDGsの17目標や169のターゲットとの関連性について討議し、全ての事業活動が、何らかの形でSDGsの目標やターゲットにかかわりがあり、グローバルな視点で社会に役立っていることを実感できました。

これからも、一つでも多くのSDGs目標達成に貢献できるよう取組みを進めていきます。

●SDGsについて全社で勉強会



東京本社



大阪支社



滋賀工場



埼玉工場



王子工場



真岡工場



富士工場

SDGsをテーマとして討議する機会は今回初めてでした。普段グループ会社を交えての勉強会は開催していないため、グループ会社の参加者の積極的な姿勢には、気づかされたこともあり、課題も共有でき、持続的な企業活動を考える上で貴重な時間になったと思います。

サステナビリティへの取り組み報告

2023 年度 サーキュラーエコノミー勉強会

持続可能な社会構築に向け私たちダイニックが取り組まなければならない課題「気候変動対応」と「生物多様性保全」。この二つの課題を解決する手段としての「資源循環・循環型経済」について、社内の勉強会を行いました。先行するヨーロッパの事例などをご紹介いただき、製品設計段階において考慮しなければならない項目などを学びました。



東京本社



滋賀工場



埼玉工場



富士工場

主要製品のライフサイクルアセスメントを各工場の実習

気候変動と生物多様性、資源循環はそれぞれ別々の課題として存在するのではなく、相互にかかわりを持っています。時には一方の解決策が他方へ悪影響（トレードオフ）をもたらすこともあります。トレードオフの問題を回避するためには、製品の原料の採掘から使用済み製品の廃棄までにわたるライフサイクル全般の環境影響を把握することが重要と考えます。

様々な環境課題を意識し、負荷の少ない製品設計を行うためのツールとして、ライフサイクルアセスメントの導入を検討し、工場単位の実習を開始しました。

2023 年度から 2024 年度にかけ、全工場で実施する予定です。



真岡工場の実習風景

2023年度 拠点ごとの活動状況

滋賀工場 ～ハイテクと自然との調和をめざすモデル工場～

滋賀工場は、琵琶湖水系の清らかな水と澄んだ空気が育んだ緑の山々に囲まれた、約35万平方メートルという広大な敷地を持つダイニック最大の工場です。ここではダイニック独自の高度なテクノロジーをバックボーンにして、ブッククロス、通帳用クロス、壁紙、織物芯地、有機EL用水分除去シート、床用吸音材などのダイニックの主要製品の数々が生産されています。豊かな自然環境の恩恵を受けたこの工場はまた、自身も自然環境との調和、およびその保全を重視してきました。排水処理を完備し、資源のリサイクル活用にも力を注ぎ、省エネ・無公害をテーマとしたモデル工場として高い評価を得ています。



環境指数の実績

項目	エネルギー原単位 (kℓ/km)	CO ₂ 排出量(t)	水資源投入量 (千t)	総廃棄物量(t)	最終処分量(t)	PRTR対象物質 排出量(t)
実績	0.070564	9,638	175	1,766	228	5
前年比	+1.3%	+1.3%	+12.5%	-11.1%	-44.7%	-2.5%

環境負荷低減のために ～再生可能エネルギーの活用～ カーボンニュートラルへの取り組み

●太陽光発電パネル設置

2023年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金を活用し、滋賀工場に隣接する遊休地（ゴルフ場跡地）に設備容量1,056KWのパネルを増設しました。増設したパネルで発電される年間約120万KWHの電力のすべてを自家消費しており、CO₂排出量削減に大きく貢献しました。さらに盛り土や砂利引きを抑制し、外来種移入防止に配慮して施工しました。



増設後



増設前

2024年1月稼働開始

一方で設置した場所は「滋賀県レッドデータブック2020」で希少種（県内において存続基盤が脆弱な種）に分類される野鳥の繁殖が確認されていました。ざんねんながら設置により失われましたが、今後周辺地域を含め繁殖地回復のための施策を検討してまいります。

●高効率蒸気ボイラへの更新

省エネルギー投資促進支援事業費補助金を活用して蒸気ボイラを高効率型に更新しました。ボイラ効率だけでなくシステム効率等も考慮して機器を選定しました。導入により、都市ガス使用量を3.6%、電気使用量を50%削減でき、年間94tのCO₂排出量削減効果を見込んでいます。



2024年1月稼働開始

2023年度 拠点ごとの活動状況

生物多様性保全への取組み・地域とともに

●ゴミゼロ清掃活動

滋賀工場の地元多賀町では、滋賀県が環境美化の日と定める5月30日（ゴミゼロ）の前後に清掃活動を毎年行っています。

当社もこの活動に賛同し、5月28日（日）に、多賀町の国道306号線沿いのゴミゼロ清掃活動に今年も16名が参加しました。



●森林保全活動

10月14日（土）に多賀町高取山ふれあい公園で開催された公益社団法人滋賀県環境保全協会主催の「森林整備ボランティア活動」に今年も当社から10名が参加しました。

枝打ち作業、雑木の伐採・整理、下草刈りの森林整備を行い、清々しい汗を流しながら自然と触れ合うことができ、良い経験となりました。



●びわ湖を美しくする運動

滋賀県では「びわ湖の日」と定める7月1日を基準日として、県下全域で環境美化運動「びわ湖を美しくする運動」を毎年行っています。当社もこの活動に賛同し、6月30日（金）に行われた松原水泳場周辺の湖岸清掃活動には、滋賀工場から5名が参加しました。



2023年度 拠点ごとの活動状況

埼玉工場 ～未来志向の高度な複合技術と最新のFAライン～

ダイニツクの東の生産拠点である埼玉工場は、技術開発に力をおいた未来指向の工場として稼動しています。高度な複合技術と最新の自動化・FA（Factory Automation）ラインを駆使して、情報業界の最先端を支えるハイテク製品から、生活に密着した産業製品まで幅広く網羅。その生産体制は6つの工場から成り立っており、それぞれ紙クロス、ビニルクロス、ターポリン、インクリボン、FFC（ファインフィルムコーティング）、カーペット、不織布を担当しています。地域・環境対策にも怠りはなく、緑化推進や産業廃棄物のリサイクルシステムは、公共機関などからも高い信頼をもって認知されています。



環境指数の実績

項目	エネルギー原単位 (kℓ/km)	CO ₂ 排出量(t)	水資源投入量 (千t)	総廃棄物量(t)	最終処分量(t)	PRTR対象物質 排出量(t)
実績	0.045509	11,298	283	1,972	338	306
前年比	+7.7%	+0.3%	+6.4%	-0.2%	-32.1%	-15.4%

環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入～ 低炭素の取組み

●高効率型圧縮機の導入

22kwロード・アンロードタイプのコンプレッサ3台を、インバータタイプの高効率型コンプレッサ3台に更新しました。この結果大幅にエネルギー効率が改善するとともに、3台合計で年間約94トンのCO₂排出量が削減できました。今後も高効率型コンプレッサへの更新を順次進めていく予定です。



●照明のLED化

防爆形蛍光灯器具を環境面・経済面に優れている防爆形LED灯器具に更新しました。従来よりも照度が約60%高まったことで、45台設置していた照明器具を32台に減らすことができました。また、1台当たり約48%のエネルギー削減効果もあり、以前と同レベルの照度を確保しながら、照明による消費電力を約60%削減することができました。



2023年度 拠点ごとの活動状況

生物多様性保全への取り組み

●地域とともに

埼玉工場では毎月1回、工場周辺道路の清掃活動を行っています。2023年度は合計12回実施し、タバコの吸い殻や食品の包装、飲料ボトルなどを回収しました。



●特定外来種への対応

埼玉県が実施した県民参加の「クビアカツヤカミキリ発見大調査 2023」に協力し、敷地内の樹木の調査を行いました。敷地内のサクラやウメで被害を確認しています。クビアカツヤカミキリ（*Aromia bungii*）は繁殖力が強く、北関東でも分布を拡大しています。サクラの他、ウメやモモなどの果樹に侵入し、被害木を枯死させてしまうこともあります。（写真左：オス、写真右：メス）



場所	種類	本数	薬剤注入	被害状況	考えられるリスク	影響度	頻度	対応策
北側 (工場土手沿い)	ソメイヨシノ	26	2021年 2024年	中程度⇒軽	土手からの景観 出荷作業への倒木・落枝事故 セミの減少	小 中 小	少 少 中	樹勢回復（幼虫駆除後施肥） 危険な枝等の剪定 樹勢回復（幼虫駆除後施肥）
	カキ	1	なし	感染はあるが、自然治癒 成虫脱出孔なし	通勤者への倒木・落枝事故	小	少	危険な枝等の剪定
中央東側	ヤマザクラ	5	なし	感染はあるが、自然治癒 成虫脱出孔なし	通勤者への倒木・落枝事故 出荷作業への倒木・落枝事故 出荷待ち製品へ付着・顧客先にて拡大	小 小 小	少 少 少	危険な枝等の剪定 危険な枝等の剪定 成虫の捕殺
	ウメ	4	なし	感染はあるが、自然治癒 成虫脱出孔なし	通勤者への倒木・落枝事故	小	少	危険な枝等の剪定
南側中央	カキ	1	なし	感染未確認	公道通行車両等への倒木・落枝事故 倒木・落枝による停電電信不具合発生 通勤者への倒木・落枝事故	小 小 小	少 少 少	危険な枝等の剪定・伐採 危険な枝等の剪定・伐採 危険な枝等の剪定・伐採
	リンゴ	1	なし	感染未確認	公道通行車両等への倒木・落枝事故 倒木・落枝による停電電信不具合発生 通勤者への倒木・落枝事故	小 小 小	少 少 少	危険な枝等の剪定・伐採 危険な枝等の剪定・伐採 危険な枝等の剪定・伐採
正門横 (南東側、 県道、 市道沿い)	ソメイヨシノ	7	2021年	中程度⇒重症状	公道通行車両等への倒木・落枝事故	大	少	危険な枝等の剪定・伐採
					倒木・落枝による停電電信不具合発生	大	中	危険な枝等の剪定・伐採
					通勤者への倒木・落枝事故	大	少	危険な枝等の剪定・伐採
					公道よりの景観	中	中	樹勢回復（幼虫駆除後施肥）
					セミの減少	小	中	樹勢回復（幼虫駆除後施肥）

埼玉工場敷地内におけるクビアカツヤカミキリの影響評価を行いました。

敷地内の樹木への被害は大きく、花が減少し景観を損なうばかりではありません。

強風による倒木落枝が起これば、通行者や車両への事故リスクのほか、電線等を切断し停電や通信障害が生ずることも懸念されます。特に、工場正門側のソメイヨシノへの被害は大きく、付近に電力線などがあるのでリスク大と捉えてました。南側中央のカキとリンゴについては、樹木の大きさも小さく、今のところ被害はみられませんが、今後も観察を続けていきます。リスクの大きな箇所については枝の剪定・伐採などの対策を優先的に検討していきます。リスクが中程度のものについては、薬剤注入による幼虫の駆除など樹勢回復策を検討します。さらに、処置樹木への再感染防止のためガードネットも検討します。

敷地内のサクラの開花状況を12年前と今年で比較しました。

（写真左：2012年撮影、写真右：2024年撮影）
以前に比べ花の数が少なく、クビアカツヤカミキリの食害によって樹勢が弱っているように感じます。



2023年度 拠点ごとの活動状況

王子工場 ～確かな食品安全・品質管理で、信頼を得ています～

王子工場は、主にアルミ箔蓋材やインナーシール蓋材を製造しています。アルミ箔蓋材は、英国より「レクタシール（登録商標）」の技術を導入して以来この分野での高いシェアを獲得してきました。これは、アルミ箔を高周波で加熱して自社ブレンドのホットメルト接着剤を容器に接着する技術であり、開封性と密封性を両立することでお客様の商品の品質向上に貢献しています。また、世界規模での食の安全・品質の向上に対応するため、食品安全マネジメントシステムFSSC22000 認証を取得し、HACCPに基づく衛生管理を取り入れ、保有するクリーンルーム設備をはじめ衛生管理の行き届いた作業環境の工場で蓋材の生産をしています。



環境指数の実績

項目	エネルギー原単位 (kℓ/km)	CO ₂ 排出量(t)	水資源投入量 (千t)	総廃棄物量(t)	最終処分量(t)	PRTR対象物質 排出量(t)
実績	0.046141	1,574	17	455	94	1.5
前年比	+12.5%	-5.2%	-6.7%	-2.3%	-28.0%	-16.7%

富士工場 ～再生の出来る環境に優しい製品を作り出しています～

富士工場では、クリーンな作業環境と厳しい品質管理のもとで食品用の紙管容器、産業用（発炎筒）紙管などを製造しています。地球環境にやさしい素材の追求で、「つぎ」へのチャレンジを行っています。



環境指数の実績

項目	エネルギー原単位 (kℓ/km)	CO ₂ 排出量(t)	水資源投入量 (千t)	総廃棄物量(t)	最終処分量(t)	PRTR対象物質 排出量(t)
実績	0.000490	252	1	73	6	0
前年比	-7.8%	-14.4%	-7.9%	-12.9%	-26.9%	—

※富士工場では、PRTR法の対象物質を法基準を超えて取り扱っていません。

環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入～ 低炭素の取組み

●高効率型圧縮機の導入

22kwロード・アンロードタイプのコンプレッサをインバータタイプの高効率型コンプレッサへ更新しました。更新に際し、吐出圧力を見直し、更新前より低い圧力へ設定変更した効果もあり、年間約12トンのCO₂排出量削減につながっています。今後も高効率型コンプレッサへの更新を順次進めていく予定です。



2023年度 拠点ごとの活動状況

富士工場 ～再生の出来る環境に優しい製品を作り出しています～

環境負荷低減のために ～再生可能エネルギー設備導入～ 低炭素の取組み

●再生可能エネルギー設備導入検討

再生可能エネルギー設備導入にあたり、周囲への影響評価を行いました。その結果、当初より予定していた工場建屋屋上への導入が最も影響が少ないと判断しています。今後、設置に向けた手続きを進めていきます。

◆富士工場再生可能エネルギー導入における検討結果◆

検討区域	地上影響	周辺影響	その他の影響	影響度	頻度	課題・懸念事項・対応策
工場建屋屋上	無	無	2階作業場所の遮熱効果	中	常	
	無	無	天井の余裕荷重減少	中	稀	安全空間の確保
工場建屋壁面	無	有	隣接する県道走行車両への反射光	大	中	有効な設置面積が少なく、発電量が見込めない
倉庫屋上	無	無	強度不足	大	大	検討対象外
敷地内空地	有	有	無	大	中	有効な設置面積が少なく、発電量が見込めない
	有	有	金属盗難リスク大	大	中	
敷地外空地	有	有	敷地が離れているため送電ロスが大きい	大	大	検討対象外
	有	有	金属盗難リスク大	大	中	

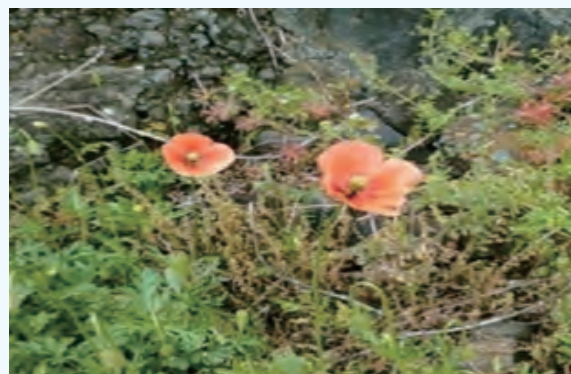
生物多様性保全の取組み

●特定外来種への対応

敷地内で繁茂していたナガミヒナゲシですが、開花直後に刈り取る作業を継続的に行ってきました。

2023年度は個体数が大幅に減少し、数輪開花したのみとなりました。

※ナガミヒナゲシは一部の自治体で「要注意外来種」に指定され、農業地等への影響が懸念される植物です。



2023年度 拠点ごとの活動状況

真岡工場 ～管理のゆきとどいた作業環境で、安全な品質をお届けしています～

真岡工場は、アルミ箔蓋材をはじめ急速に多様化する蓋材のニーズに対し、アルミ箔加工の技術基盤を活かし、フィルムとの複合蓋材への対応を実現して、食品や産業用の軟包材分野で厚い信頼をいただいています。

保有技術のいっそうの活用をはかり、「つぎ」へのチャレンジを行なっています。



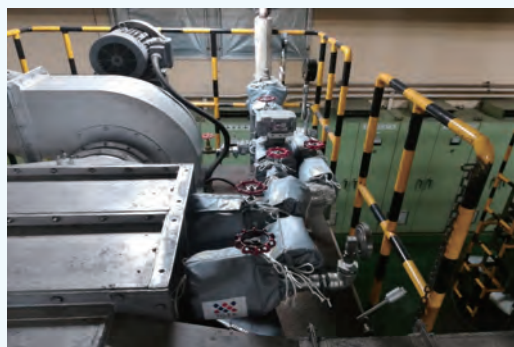
環境指数の実績

項目	エネルギー原単位 (kℓ/km)	CO ₂ 排出量(t)	水資源投入量 (千t)	総廃棄物量(t)	最終処分量(t)	PRTR対象物質 排出量(t)
実績	0.0088230	1,929	122	538	23	18
前年比	+6.9%	-8.8%	-13.1%	-12.1%	-79.7%	-18.2%

環境負荷低減のために ～エネルギーロス削減～

● 蒸気配管系統更新

東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社様と共同で各生産設備用蒸気配管内の各機器専用のジャケット型の保温材を製作して取り付けました。ジャケット型保温材をほぼすべての機器に取付けた結果、熱放出の大幅な抑制となり、生産設備全体で5%程度のエネルギー消費削減につながりました。



生物多様性保全の取組み ～地域とともに～

● 工業団地内一斉清掃参加

真岡工業団地総合管理協会の主催で、真岡工業団地内の一斉清掃が11月8日(水)に開催されました。当社も工場周辺道路の清掃活動に参加いたしました。



2023年度 拠点ごとの活動状況

DYNIC USA CORPORATION

1988年、米国・オレゴン州ヒルズボロに設立。バーコード用サーマルトランスファーリボン・タグ用ファブリックシートなどを製造・販売、北米・中南米に輸出しています。

本社・工場

4750 N.E.Dawson Creek Drive, Hillsboro,
Oregon 97124, U.S.A

TEL: +1-503-693-1070 FAX: +1-503-648-1185

<https://www.dynic.com/>



環境負荷低減のために ～省エネルギー設備導入～



●LED 照明の導入

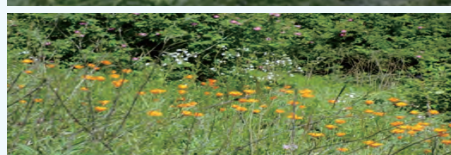
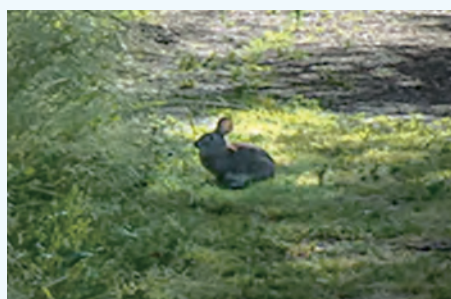
DYNIC USA では、2024 年にすべての蛍光灯を LED 照明に置き換える予定です。

これにより、照明の電気使用量を年間約 70% 削減することを見込んでいます。

生物多様性保全の取組み

●湿地保全活動

2023 年 10 月、DYNIC USA がジャクソンボトム (Jackson Bottom) の保全活動に参加を開始してから 25 周年を迎えました。ジャクソンボトムは、オレゴン州ヒルズボロ市にあり、257ha(635 エーカー) の湿地保護区で、多種多様な植物や動物が生息しています。DYNIC USA は、1997 年からこの活動に参加しています。



2023年度 拠点ごとの活動状況

DYNIC (CZ) s.r.o.

2018年、欧州大陸の拠点としてチェコ共和国にDYNIC (CZ) s.r.o. を設立。DYNIC (UK) LTD.と連携してサーマルトランスファーリボンを欧州大陸を中心に加工、販売しています。

本社・工場

Segro Logistics Park Prague Hala H, U Dalnice 1384, 253 01,
Hostivice, Czech Republic
TEL: +420-212-246-397



環境負荷の低減のために ～フォークリフトの更新～

●フォークリフトの電動化

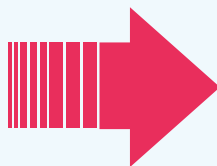
所有するフォークリフト（1台）をLNG車から電動車へ置き換えました。

LNG 使用量削減の他、排気ガスによる臭気抑制など従来よりも作業環境が改善しました。

置き換え前のLNGエンジン車



置き換えました



置き換え後の電動車



2023年度 拠点ごとの活動状況

アストロパーク天究館

ダイニックアストロパーク天究館は、口径60cmの反射望遠鏡と各種観望機器を備えた民間企業初の公開天文台です。

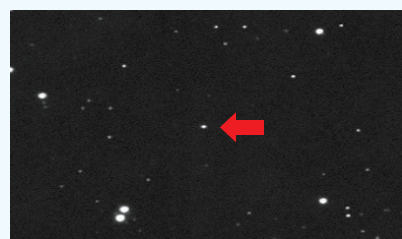
創業以来、ブッククロスを通じて文化・教育の分野に深く係ってきたダイニックが社会貢献と文化活動の理想として1987年に開設しました。



テレビ・新聞などでの活動紹介

●天究館で発見された小惑星「宮沢賢治」がテレビ放送で紹介されました。

宮沢賢治の没後90年にあたる2023年、4月から9月にわたり、NHK Eテレ「こころの時代」にて全6回の特集が組まれました。初回の放送では、1990年に天究館で発見し『宮沢賢治』と名付けた小惑星について、「命名のいきさつ」や「発見時の様子」「プラネタリウムでシミュレーションした『宮沢賢治』の映像」が全国放送されました。



▲中心に見える小惑星「宮沢賢治」

ペルセウス座流星群特別観望会

●4年ぶりに開催、ペルセウス座流星群特別観望会

コロナウイルス感染拡大防止の為に中止としていた恒例の「ペルセウス座流星群特別観望会」を2019年以来4年ぶりに開催しました。

8月12日は夕方から深夜にかけて、流星の出現が一番多くみられ、約150名の方々に時折流れる流星に歓声を上げてお楽しみいただきました。

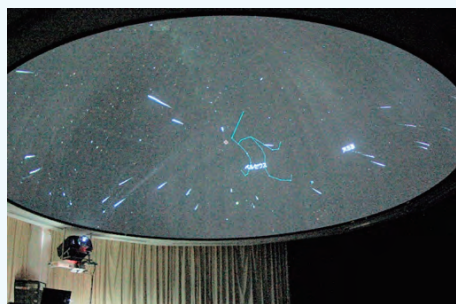


▲観察されたペルセウス流星群

天体観望会

●デジタルプラネタリウム

当社創立100周年を機に導入した本格的なデジタルプラネタリウムも引き続き大好評です。



▲夏のペルセウス座流星群出現のシミュレーション。

天究館では毎週土曜日に開催する定例天体観望会のほか、天体イベント（皆既月食や流星群など）に応じて開く「随時天体観望会」などを開催しています。一昨年には、皆既月食中に、天王星が月に隠れる天王星食も見られる大変珍しい現象があり、これまでに構築したリモート天文台観測システムを活用し、新たな試みとして、インターネットを利用したライブ中継も行いました。

プラネタリウムや天文台の望遠鏡を使用し、専門スタッフが案内する定例天体観望会を開催しています。

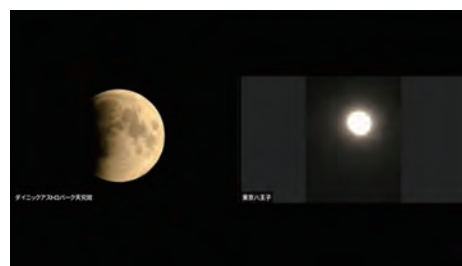
定例天体観望会

毎週土曜日 19:30 ~ 21:30

<観望料>

小中学生：100円

高校生以上：200円



『環境報告書2024』

発行：ダイニック株式会社 環境推進室

発行日：2024年8月16日

